スピーキングテストの試行（1～2年次）

英語科 西 平 美 保
協力者 小 林 三 佳

目　　次

I　試行の動機…… 52
1．試行を思い立ったきっかけ…… 52
2．ある程度強制力をもたせるとどうなるか…… 53
3．書くことは苦手でも，話すことは得意な生徒の評価…… 54
4．試行の目的と仮説…… 55
II　試行に際して…… 55
1．実施形態…… 55
2．実施に際しての留意点…… 56
III　テストの内容…… 57
1．第1回テストの内容（1年2学期：2001年11月下旬実施）…… 57
2．第2回テストの内容（1年3学期：2002年2月下旬実施）…… 59
3．第3回テストの内容（2年1学期：2002年6月下旬実施）…… 61
4．第4回テストの内容（2年2学期：2002年11月下旬実施）…… 63
5．第5回テストの内容（2年3学期：2003年3月上旬実施）…… 64
IV　評価と課題…… 64
1．アンケート結果からみる評価…… 64
2．今後の課題…… 69

I　試行の動機

1. 試行を思い立ったきっかけ

(1) 卒業時の生徒のつぶやき

この試みは平成13年度から始めたのもだが，絶対評価の導入とは何の関係もない。たまたま14年度から学期ごとに観点別の成績をつけなければならなくなったので，スピーキングテストの結果を評定を出す要素として利用してはいるが，それを意識して始めたものではない。そもそものきっかけは次の通りである。

3年間英語を担当した学年に向けて恒例にしていることだが，12年度の卒業生の最後の授業で「3年間の英語の授業の感想」を書いてもらった。毎回，新1年生の授業を考えるときの参考にしているので，ただの感想でなく自由に意見も書いてもらっている。「歌をもっと増やす」「映画をもっと見たかった」「長文をもっとやりたかった」「ALTとの授業を増やす」といった，かつての生徒達も書いてくれたような内容が多かった中で，「3年間，学校でも塾でも英語を習って，けっこう読んだり書いたりできるようになったが，話せるようにはならなかった」というものがあった。

3年間も英語を教えてきて，3年間で400時間（コマ）以上も英語をやっていて，英語が特に苦手でもない生徒から「話せるようにはならなかった」と書かれたことに唸ってしまった。この生徒はもちろんのこと，多くの生徒は作成した原稿を暗記して発表したり，あらかじめ頭の中で用意していることを話すことはできる。ALTを交えた授業も難なくこなしている。そう考えると，おそらくこの生徒が言いたいのは，「読めるように」「書けるように」「聞けるように」なったほど「話せるように」はならなかったということなのだろう。英語を何も知らなかった頃に比べれば，十分「話せるように」なっているはずなのだが，他の3つの伸びと比較すると，全然できていないと感じるのだろうと思う。そしてこのことは実際，ほとんどの生徒に言えることなのである。

(2) 生徒にどういう力をつけてきたか

私は生徒に，そのレベルや要求に応えるべく，その都度いろいろな試みをおこなってきた。また，全員に対しては「発音したり音読したりできるように」「文法が理解できるように」「文章を読んで理解できるように」「問題を解けるように」「自由記述ができるように」してきたし，とりわけ英語が苦手な生徒に対しては，SVOの語順を理解させたり，単語の追試をしたり等に放課後の時間を使ったりしてきた。

しかし考えてみると，スピーキング力の全員の底上げをするような，3年間の展望を持った，そしてある種の強制力を持った試みは全くしてこなかった。「文法」および「読む」「書く」については，まず1年次では，「音と文字と意味の三角形がつながらない」ことでつまづき，次は「be動詞と一般動詞の混乱」でつまづき，つぎは「人称の理解や動詞の使い方」でつまづき…，といった傾向とそれに対する対策を体得している。英語の教員を一定期間やっ

ていれば自然と分かってくることだろうと思う。だから，ある時期には否応でも呼び出して追試をやらせたり，1対1で教えたりもする(もちろん全然十分でないことは承知だが)。それも3年間を見通して，今ここをクリアしなければ，そのあとサッパリ理解できなくなる，というようなことが分かっているからである。

生徒は中学3年間のうちに，目に見えて，リーディング，ライティング，リスニングの力をつけていく。入学直後の状態と比較すれば，3年生後半の英語力，特にリーディングとライティングの力においては，彼等が確実に「学習した」ことがわかる。それは学校の授業を通じてだけの変化ではないのかも知れない。学習塾や英語教室に通ったり，ラジオ講座を聞き続けたり，問題集や参考書を使って自力で勉強した結果のことなのかも知れない。それでも結果として大きな進歩を遂げていると言える。

一方，スピーキングの力はどうだろうか。中3段階で「書ける」レベルまで「話せる」生徒は怖ろしく少ない。それは「読める」レベルまで「聞ける」生徒が少ないの比ではない。授業では，ALTの協力を得，レッスンごとにペアワークやグループアクティビティ等を企画し，教師も努めてクラスルームイングリッシュを使い，生徒が英語で発表する機会を増やし…といった努力は，どこの学校でもおこなっていると思う。本校でもこれまでスピーキングの力を伸ばす試みを色々行ってきた。それでも現状はそうなのである。

2. ある程度強制力をもたせるとどうなるか

(1) 本校でおこなっているスピーキング中心の授業

十年来様子を観察していると次のようなことがわかる。①ALTの個性を活かしたTT授業。生徒はそれなりに楽しんでいる。が，ゲームや歌やインタビューアクティビティー等に嬉々としているのも1年生～2年生の前半までで，中学も後半になると楽しい試みに乗ってこない(一部の英語が好きな生徒は中3になろうと高校生になろうと好きなようだが)。②次に，3年生で週1時間コース別授業をやっている。スピーキングの力をつけたいものはそれを選択するが，各クラス約30～35名のうち毎年5～10名だ。英語圏からの帰国生はほとんどそれをとる。英語の苦手な者はまず選択しない。③次に，OWNプラン週間があり，クラスの枠をはずして自由に選択できる機会がある。ALTに協力してもらってスピーキングのコースを設定することもよくあるが，自由選択なのでこれも得意な生徒か興味のある生徒しか選択しない。

つまり，かような様々な試みも，英語の好きな生徒，得意な生徒，話したがる生徒，のスピーキング力を伸ばすことには貢献しているが，多く（おそらくは優に過半数を越える数）の生徒にとっては，力をつけるためのプログラムというより，気分転換くらいの意味合いしか持っていないのだと思われる。

(2) 評価を点数化すること

すでに「読む」「書く」「聴く」の3つは，授業担当者を問わず，定期テスト等で点数化し

て評価されている。9教科の授業は，選択授業等と違って必ずしも興味関心のある生徒ばかりが受けているわけでない。興味関心が際だっているわけではない多くの生徒や，英語が嫌いで出来れば避けて通りたい一部の生徒たちの英語力の底上げをするために，小テストや定期考査の果たしている役割は大きかろう。「読む」「書く」「聴く」（特に「読む」「書く」）の3つにおいて，3年間で目に見えて力がついてしまうのは，ある程度の強制力が働いているからだろう。

そこで「話す」ことでもテストを課して点数化すれば，何らかの効果があるのではないかと考えた。テストをすれば，生徒同士練習したりするだろうし，授業中のQ＆Aや，ALTとの授業でも，積極的に練習として利用しようと考えるのではないか，等々考えたわけである。

余談だが，中学校に限らず，高校，大学と進学しても「読む」「書く」あるいは「選択肢を選ぶ」テストは，学校の内外を問わず数え切れないくらい経験するが，「話す」テストはほとんどゼロに近いだろう。日本に居ながらにして，特に英語に強い興味関心を持っているわけでもない多くの人が，言語学的にも日本語から遠い位置にある言語である「英語」を学習して，その力を伸ばしていくためには，テスト込みの練習を繰り返すほかないと考えるが，どうだろうか。高校入試や大学入試にスピーキングテストを課せば，否応でも練習するし，力もついていくのではないだろうかと，ふと思ったりするわけである。

3. 書くことは苦手でも，話すことは得意な生徒の評価

英作文や自由記述が得意でも，話すとなると途端に黙ってしまう生徒がいる一方で，書くことは苦手だが，話すことが好きで得意な生徒もいる。この「書くことは苦手だが，話すことは得意な生徒」の場合，さらに2つに分類される。

1つは，語順の正しい英語を話せもするし書けもするのだが，1つ1つの単語のスペリングがいい加減なために，ペーパーテストでは減点対象になってしまう場合である。特に男の子に多く，評価の正確さや客観性が要求される定期考査などでは，どうしても点が悪くなってしまう。まだ入門期であっても「自分は英語が苦手だ」という意識を持ちやすい。こういう生徒を救う機会を作るためにも，スピーキングテストは有効なのではないかと考えた。

もう1つは，実は英語の構造が理解できていないのだが，単語だけで返したり，ボディーランゲージや表情等をふんだんに駆使して会話を継続できる場合である。ただし，このやり方が通用するのも1年生くらいまでで，学習内容が進んで，ある程度内容のある英語を話さなければならなくなってくると，基本的な事項が習得の有無が大きく影響してくる。スピーキングテストでも点が取れないということは，文字のせいに出来ず，すなわち，根本的に理解できていないことになり，そういう生徒の洗い出しにも有効なのではないかと考えた。

4. 試行の目的と仮説

(1) 試行の目的

① 相手の質問を理解してそれに答える力をつけることを目的とする

会話が続かないのは，まず相手の質問が聞き取れないという段階でつまづき，次にそれに対しての答え方が分からないとう段階でつまづき，従って次の会話を発展させていけない。そういう堂々巡りの最初の段階をクリアするために，用意した英語を発表する力ではなく，相手の質問に答える力をつけることを目的とした。

② テストの内容はなるべく平易にし，文字が苦手な生徒でも，自分は話すことは得意だという達成感が得られるようにする。

(2) 試行における仮説

「読む」「書く」「聴く」と同じ強制力を持たせて，評価を点数化して成績に入れれば，それをしないときに比べて何らかの良い効果があるのではないか，というのが本試行の仮説である。

II 試行に際して

第1学年の2～3学期末，第2学年の1～3学期末の，計5回実施し，各学期の成績の素点に入れ込む形でスピーキングテストをおこなった。幸いにして2年間持ち上がりだったので2年間分の試行が可能となった（3年次も持ち上がりなので第6回以降も試行を続ける予定）。なお，この試行はそもそも教員1名では不可能で，非常勤講師の協力が得られてこそのものだったことを明記しておく。

1. 実施形態

(1) 実施日

同日に（できれば午前中に）4クラスとも英語の授業がある日を選んだ。実施した5回とも期末考査の1週間前か数日後に設定した。

(2) テスト場所と生徒の流れ

普通教室前の廊下を利用した。教室の前と後ろの2つのドアを出たところにそれぞれ試験官Aと試験官Bがいて，テストの順番が来た生徒は廊下に出，机をはさんで試験官と対面して椅子に座る。テストが終わったら同じドアから教室に戻って自習用課題等をする。順番を待っている生徒は，テストの準備をしていても構わない。（実際には，テストの終わった者が教室に戻ってくると「どんなのが出た？」と情報交換をしたり「チョー緊張した！」等々の感想を言い合うので，放っておくとしばしば大騒ぎになる。よって，何度か怒鳴りにいかなくてはならない。）

テストを受ける順番は，出席番号をもとに昇順にしたり降順にしたりした。いつも，誰か

ら始めるかということが生徒の最大の関心事で，それに偏りが生じると抗議が予想されるので，毎回異なるパターンになるようにした。

(3)　時間配分

1年生は1クラス約40名，2年生は約35名である。また，授業時間は45分で，最初に説明の時間を5分ほどとるので，実際に使える時間は約40分である。2名の試験官がそれぞれ受け持つのは，1年次は20名，2年次は17名だったので，出入りの時間も含めて生徒1人あたりに使える時間を計算し，時間オーバーしないように，問題量を調節した。

(4)　英語圏出身の帰国生の対応

第1学年では一般学級3クラスの他に帰国子女特別学級が1クラスある。帰国生は別プログラムの授業をおこなっているので，一般生対象のテストには参加しなかった。

第2学年では，4クラスのうち2クラス(松組，菊組)に帰国生が混入している。英語圏からの帰国生は，週4時間の英語の授業のうち3時間は取り出し授業，1時間は一般生と同じ授業を受けている。英語圏からの帰国生にとって一般生対象のスピーキングテストは簡単すぎるが，評定を出す際の素点の1部になるので，第3回～第5回の3回とも同じテストを受けてもらった。当然満点なので気分は良いようだった。

2.　実施に際しての留意点

(1)　生徒の達成感を重視するため問題は平易にする

リーディング，ライティング，リスニングに比べて，テスト慣れしていないこともあるので，不要な苦手意識を持たせないためにも，毎回問題は平易にした。特に，文字を書くことが苦手な生徒に，「でも自分は口で表現することはできる」という達成感を持ってほしいという願いがあるからだ。

(2)　出題内容は予告し，問題のバリエーションを豊富にする

テストは4クラス，順におこなうために，どうしても先におこなうクラスの情報が流れてしまう。入試の面接のように受検者の流れを一方通行にして，待っている人と終わった人とが合流することのない設定は理想的だが，136人を対象に試験官2名では全く不可能だ。実際には，授業時間を使って4クラス順次おこなうしかないので，そうなっても結果に差が表れないよう工夫した。1つは，予め出題内容を知らせておくこと，もう1つは，先にテストを受けた人と同じ問題が当たる確率を低くするために，問題のバリエーションを豊富にすることである。クラスによる実施の早い遅いによって生徒が不公平感を抱き，私へ苦情を言いに来ることを少しは想定していたが，5回の実施で1度もなかったので効果があったと言える。

(3)　採点基準を細かく設定する。

これも評価の公平性に配慮するのが目的である。ペーパーテストと違って解答が証拠として残らないので，あとから新たな目で見直すといったことができない。採点基準があいまいだとテスト時の採点者の主観が入りやすいので，基準を細かく設定し，それを事前に生徒に

も知らせた。また，テスト時の採点用紙をあとで生徒に返却し，採点の過程をオープンにした。

(4) 試験官同士の打ち合わせ

試験官が2名なので，採点に差が出ないように，以下の3つのことをおこなった。①質問する速度が違わないように，事前に話す速度を打ち合わせしておく。②想定できる「不測の事態」に対しては，できる限りの対応策を事前に用意しておく。③1クラス終了するごとに，何か採点に困ったことはないか情報交換をする。

III　テストの内容

1. 第1回テストの内容（1年2学期：2001年11月下旬実施）

(1) ねらい

1年の11月時点までに習った事項の定着ができているかをみることを目的とした。具体的には以下のようなことである。

- 相手の質問は，誰のことをきいているのかを判断して答えられる。(人称の問題)
- 相手の質問は，Yes-No question なのか，WH question なのかを判断して答えられる。
- 相手の質問文で使われているのが，be 動詞なのか一般動詞なのかを判断して答えられる。

単語だけ，フレーズだけで答えられることも大切だが，それは授業中の活動など楽しんで英語を使える時間に経験しているので，テストではあえて full sentence で答えることを目的とした。2～3年にかけて内容が難しくなっていったときに，1年の基礎ができていないと，積み上がっていかないからである。

(2) テストの内容

簡単な質問文を偏りなく配分したものを6パターン用意した。多少似ているものもあるが，第1回目の試みだったこともあって，それほど他のクラスに情報は流れなかったようだ。

1 1. Are you a junior high school student ? 2. Are you thirsty now ? 3. Do you read newspaper every day ? 4. How many CDs do you have ? 5. Who is your best friend ? 6. What is your name ? 7. What sports do you like ? 8. What do you do after school today ?	2 1. Are you a high school student ? 2. Are you busy today ? 3. Do you watch TV every day ? 4. How many brothers and sisters do you have ? 5. What club are you in ? 6. Who is your homeroom teacher ? 7. Where do you live ? 8. How do you come to school ?
3 1. Are you twelve years old ? 2. Are you hungry now ? 3. Do you drink milk every day ? 4. How many watches do you have ? 5. How old are you ? 6. What is your phone number? 7. What susbject do you study on Sunday ? 8. What do you do after school today ?	4 1. Are you thirteen year old ? 2. Are you fine today ? 3. Do you study English every day ? 4. How many bikes do you have ? 5. What is your hobby ? 6. Who is your homeroom teacher ? 7. What sports do you play ? 8. How do you come to school ?
5 1. Are you fourteen years old ? 2. Are you angry now ? 3. Do you eat breakfast every day ? 4. How many school bags do you have ? 5. Who is your homeroom teacher ? 6. How old are you ? 7. What subject do you like ? 8. What do you do after school today ?	6 1. Are you fifteen years old ? 2. are you happy today ? 3. Do you use a computer every day ? 4. How many pets do you have ? 5. What is your phone number ? 6. Who is your best friend ? 7. Do you lilke math or science ? 8. How do you come to school ?

(3)　採点の仕方

1問3点で24点満点とし，採点基準は以下のようにした。また，これは事前に生徒に伝えておいた。

- 複数形や三単現の（-S）の有無，冠詞（a /the）の有無，発音の良し悪しは減点しない。
- “Pardon”は1回まで認めます。2回以上使ったら，そのつど「－1」
- “Yes.” ”No.” だけや，単語だけで答えたら「－1」
- 先生の質問が終わって10秒以内に答えなかったら「－1」
- 答え自体が間違っていたら「－1」
- “I don’t know.”とか日本語で「分かりません」と答えたら「－1」

実施前は細かすぎるかと思ったが，実際にやってみると，多種多様な答えが出てくるものなので，これくらい細かくてちょうどよいくらいだった。なお，採点結果はメモしておき，あとで採点官同士でつきあわせをおこなってから最終的な得点を出した。

これは2学期の期末テスト100点分のうちの24点分だったので，生徒も真剣に臨んだようだ。文字を書くことが苦手なためにペーパーテストで点がとれない生徒たちも，このスピーキングテストの方はほとんどが満点に近かったので，結果として彼らの期末テストの点の底上げになったようで喜んでいた。

2. 第2回テストの内容（1年3学期：2002年2月下旬実施）

(1) ねらい

1年の2月までに習った事項の定着ができているかをみることを目的とした。前回のテストのねらいを踏襲し，その上にいくつか加えた。

- 相手の質問は，誰のことをきいているのかを判断して答えられる。（人称の問題）
- 相手の質問は，Yes-No questionなのか，WH questionなのかを判断して答えられる。
- 相手の質問文で使われているのが，be動詞なのか一般動詞なのか，また助動詞（can）が使われているのかを判断して答えられる。
- あるテーマについて，まとまった内容を英語で伝えることができる。

(2) テストの内容

以下の内容をあらかじめ生徒に伝えておいて準備してもらった（資料1参照）。③のshort speechは事前に原稿を作成して暗記しておくことも可である。

① 生徒自身についてたずねる質問を6問出題（3点×8）
- Yes-No question を（Are you ～？/ Do you ～？/ Can you ～？より）4問
- WHquestion を（What～, What kind of～, How many ～s, Where, How, What time より）4問

② 生徒の身近な人や事柄についての質問を2問出題（3点×2）
- Is your [名詞]…?, Does your [名詞]…?, Who is [名詞]?, What is [名詞]? より2問

③ 次の質問に対して「文4つ」で答えるものを1問（10点×1）
- Tell me about your homeroom teacher.
- Tell me about your hobby.
- Tell me about your best friend.

実際に質問した内容は次の通りである。今回は2名の非常勤講師の協力を得ることができて試験官が計3名だったこともあり，結果として時間に多少余裕ができたので，生徒1人あたりの質問数を増やした。そのぶん不測の事態も増えることを予想して，質問用紙を人数(136名）分用意した（資料3参照)。また採点の記録をしたものを後ほど生徒に返却した（このやり方はこの後ずっと続けた)。

質問文は以下のようなものを6パターン用意した。前回のテストで使った構文に新たなものを加えてある。

(例1)	(例2)
1. Are you a junior high school student ?	1. Are you busy today ?
2. Do you watch TV every day ?	2. Do you eat dinner with your family ?
3. Can you sing an English song ?	3. Can you play rugby ?
4. Can you play basketball ?	4. Can you make apple pie ?
5. What color do you like ?	5. What color do you like ?
6. How many CDs do you have ?	6. How many brothers and sisters do you have ?
7. Where do you live ?	7. (You are in Tokyo.) How do you go to New York ?
8. What time do you get up ?	8. What time do you get to school/
9. Does you mother go shopping every day ?	9. What is your nickname ?
10. What is your hobby ?	10. Who is your sports teacher ?
11. Please tell me about your homeroom teacher.	11. Please tell me about your best friend ?

(3) 採点の仕方

今回は，期末テストとは別に40点満点で実施し，学期の成績を出す際の素点として組み込んだ。採点の仕方は前回と同じで，short speech については以下のようにした。

- 語順の正しい文が1つ言えれば2点，4つ全部言えれば8点
- 何か英語で言えても，語順が正しくなければ「－1」
- 黙ったままだと「0点」
- この問題は10点満点だが，2点分はもともとオマケ

かなり甘い採点基準だが，ペーパーテストではスペルミス等で細かく減点されていく現実をふまえて，スピーキングテストでは意欲や口に出す勇気などの方を評価することにしている。

3. 第3回テストの内容（2年1学期：2002年6月下旬実施）

(1) ねらい

2年の6月までに習った事項の定着ができているかをみることを目的とした。テストのねらいは第2回テストのものに加えて，過去形の定着を加えた。

- 相手の質問は，誰のことをきいているのかを判断して答えられる。(人称の問題)
- 相手の質問は，Yes-No question なのか，WH question なのかを判断して答えられる。
- 相手の質問で使われているのが，be 動詞なのか一般動詞なのか，また助動詞が使われているのかを判断して答えられる。
- 相手の質問は，現在のことかのか，過去のことなのかを判断して答えられる。
- あるテーマについて，まとまった内容を英語で伝えることができる。

(2) テストの内容

今回も以下の内容をあらかじめ生徒に伝えておいて準備してもらった（資料2）。③の short speech は，前回同様，事前に原稿を作成して暗記しておくことも可である。

① Yes-No question を4問出題（3点×4）
　A　あなた自身に関する質問（現在，過去，助動詞 can, will（未来）を使って）
　B　あなたの身近な人に関する質問（現在，過去，助動詞 can, will（未来）を使って）
　C　一般的なことについての質問（天気や日付や曜日について）
② WHquestion を4問出題（4点×4）

What ～？/ What(名詞)～？/ What kind of（名詞)～？/ Who ～？/ When ～？/ What time ～？/ Where～？/ How～？

以上の疑問詞を使い，上記①を応用させる。

③　次の質問に対して「文４つ」で答えるものを１問（８点×１）

Tell me something about your elementary school days.

注）①～②で計８問になるが，実際のテストでは間違えて計９問にしてしまったので配点を変えて対応した。

２年生からは１クラスの在籍数が34名に減ったので，１名の非常勤講師の協力を得て，試験官２名体制でおこなった。

既習事項が増えるにつれ質問文のバリエーションも多くなってくる。また生徒もだいぶ慣れてきて，遅く実施されるクラスに情報が流れやすくなることを予想して，４クラスのうち前半２クラス後半２クラスで，質問のパターンを違えるようにした。前回までは，同じ６パターンの質問集をどのクラスにも適用したが，今回は６パターンの質問集を２組用意しておき，実施の早い２クラス（蘭(R)組，菊(K)組）と遅い２クラス（松(M)組，梅(U)組）のそれぞれに適用した。

色々なバリエーションで質問文を作る作業はけっこう面倒である。前回まではワープロソフトを使って，行の入れ替えをおこなって作っていたが，それでも追いつかないので，今回からはシャッフルするのに表計算ソフトを利用した。以下のように構文ごとに10個くらいの文を用意し，適当に１～６の番号をつけて並べ替えることによって，蘭菊組用の６パターン（RK1～RK6)，松梅組用の６パターン（MU1～MU6）を作成した（資料４)。

〈How many ～？の例〉

1　How many people are there in your family ?

1　How many students are there in your class ?

2　How many days are there in a week ?

2　How many months are there in a year ?

3　How many computers are there in your classroom ?

4　How many TVs are there in your house ?

5　How many science rooms are there in your school ?

6　How many blackboards are there in your classroom ? など

〈Did you ～？の例〉

1　Did you watch World Cup soccer game yesterday ?

1　Did you watch Wimbledon tennis game yesterday ?

2　Did you go anywhere with your friends yesterday ?

3　Did you practice for this speaking test yesterday ?

4　Did you go shopping with your family yesterday ?

5　Did you enjoy your school life last year ?

5　Did you enjoy School Festival last year ?

6　Did you go to Enoshima last March ? など

(3)　採点の仕方

採点の仕方は前回にならった。毎回ほぼ同じ採点基準なので，生徒の方も慣れてきて，テスト前に採点基準を確認してくる人数が減ってきた。

この第3回テストから，絶対評価が導入されたので，スピーキングテストの点を「表現する力」に入れて評価した。

4．第4回テストの内容（2年2学期：2002年11月下旬実施）

(1)　ねらい

2年の11月までに習った事項の定着ができているかをみることを目的とした。第3回テストのねらいと同じだが，さらに助動詞（Will you ～ ? Shall I ～ ? may, must, have to (do)）を使った質問に対応できることを目的とした。

(2)　テストの内容

テスト内容を事前に生徒に伝えるのは前回の通りである(資料5)。質問文の作成等も前回のやりかたを利用した。

① Yes-No question を3問出題（4点×3）

② WHquestion を3問出題（4点×3）

What ～ ? / What(名詞)～? / Which～? / Who ～? / When ～? / Where～? / How～ ? / How many（名詞）～? / How much ～ ? / What time ～ ?

③ 助動詞を使った表現を1問出題（4点×1）

Will you～ ? / Shall I ～ ? / may, must, have to (do) を使って

④ 次のテーマのうち，好きなものを選んで「文4つ」で答えるものを1問。ただし4つの文のうち必ず1つは“I think (that)….”の表現を使って自分の考えを述べる。（8点×1）

School Uniform(制服)，School Rules(校則)，Internet(インターネット)，World Cup（ワールドカップ），Terrorism（テロリズム），Recycle（リサイクル）

(3)　採点の仕方

採点基準は毎回のとおりである。前回と同様，スピーキングテストの点は「表現する力」に組み入れた。

生徒はだんだんQ＆Aには慣れてきたが，内容をよく考えないで，とりあえず何か文法的

に合っているものを答えればいいという生徒も増えてきた。答えが周知の事実である場合，適当に答えた結果が誤答になることはよくあるし，また，常識の無さが誤答を招くこともある，ということに気をつけて次回に臨むよう，テスト後に生徒に伝えた。

5．第5回テストの内容（2年3学期：2003年3月上旬実施）

(1) ねらい

第1回～第4回まで似たような問題で，生徒はだいぶQ＆Aにも慣れてきたので，今回は趣向をかえた出題にした。1つは「英語の文章を声に出して読む」こと，もう1つは習ったばかりの「道順を教える」ことにして，生徒の意欲をみることを目的とした。

(2) テストの内容

1つは，教科書（Total English 2）の Lesson 6 Barrier-Free より出題。乙武洋匡さんのスピーチを用いて，スピーチ文を読むことを問題にした。生徒には事前に6A～6Cの各ページのいずれか1つが出題されることと，おおまかな採点基準を伝えておく。テスト本番では試験官に手渡された教科書のコピーを読む。

もう1つは道を尋ねられた場合の答え方をみるもの。地図を3枚用意しておいて，試験官がそのうち1枚を見せ，ふたりの現在位置を確認し，目的地へどう行けばいいか問う。生徒の答えの通りに進んで，目的地へ到着できれば合格である。

(3) 採点の仕方

今回はスピーキングテストの点を，観点別の「関心意欲」に組み入れた。採点用のシートは例によって事前に作成したが(資料6)，その細かい内容は生徒には伝えなかった。朗読の採点は微妙な判断を要求されるので思いのほか難しく，さらに試験官が2名なので，その判断の足並みを揃えることでも難しさがあった。もし次回おこなう場合には，今回気づいた点を踏まえて，採点基準をより明確にして臨みたい。

Ⅳ　評価と課題

1．アンケート結果からみる評価

(1) 第1回テスト実施後（第1学年12月時点）

全員ではなかったが，当時おこなっていた英会話授業（1クラス40名を2分割）で，時間の余ったクラスにスピーキングテストをやってみての感想を自由記述で書いてもらった。20名のうち回収した分だけを記録として残しておく。

生徒は，ためになると頭では分かっていても内心嫌がっているのではないかと思っていたが，「楽しかった」「おもしろかった」という感想もあって意外だった。第1回目は大変平易なテストだったし，準備をして臨んだテストでほぼ満点をとれて，人との比較ではなく自分

なりの達成感があったのではないかと思われる。同じ緊張状態でも，静寂の中で行われるペーパーテストと違って，待っているあいだも終わってからも，友達と声をあげて一喜一憂できる，ちょっとしたお祭り的なイベントの印象もあったのだろうと思われる。

〈□は女子，■は男子〉

□とてもゆっくりでわかりやすかった。だからもう少しはやくしてもいいかなぁっと思った。これからも話す力をつけるためにテストでやった方がいいと思った。とても良いと思います!!

■熱くなった。おもしろかった。

□がんばって勉強したこともあって，良い点がとれたと思います。けっこう身についた！

□きんちょうして，おぼえたコトがなかなかでてこなかったけど事前にプリントを配っておいてくれて，どこがでるのかわかっていたから，勉強しやすかった。

□ゆっくりだったので聞き取りやすかったです。人数が多かったからだとは思いますが，問題の数が少なかったです。

■むずかしかったのもあったりかんたんなのもあってよかった。けっこうしつもんされるとこたえられなかった。

□I come to school ～の to が抜けてしまって－1点になってしまったのがとても残念だった。はじめ“use～”の形でやって，まちがったと思って直したけど，それでもよかったみたいで残念だった。でも speaking は楽しい！

■ぼくはスピーキングが苦手だったので，スピーキングテストがあるためにそのことなどを勉強できるのでいいと思いました。

□楽しかった。きんちょうしたケド，思ったよりも，ゆっくり言ってくれたし，分かりやすくて，かんたんだった。テストの前にプリントをもらえたからよかった。これからもそうしてほしい。

■全部答えられなくてくやしかった。あはは，スピーキングはよわいのでとっくんしたい。

□スピーキングテストで会話についてもしかり勉強できたのでよかった。けっこう楽しかった。

□いろんなことが話せるようになったよーな気がする。3学期ももっとがんばりたい。

□やるときはすごく緊張していたケド，やっていく時におもしろくなってきた。英語で話すというのはあまりないからとても良いと思う。でも，すっごくはずかしかった。

■しゃべる事は英語を使っていくうえでけっこう大切なものなのでいいと思います。おもしろかった。

■スピーキングテストは，普通のペーパーテストとは違ってとてもきんちょうするし，忘れてしまいそうなのでなかなか難しかった。

□きん張して，ふだんより，うまく話せませんでした。先生が，もっと笑ってくれればよかったです。もっと範囲が広くてもよかったです。“テストの点に入れる”というと，きん張す

るので，言わないでほしいです。

□初めてのspeakingテストだったので，きんちょうして1問“Are you a high school student?”を“Yes, I am.”と答えてしまったのがくやしかった。もし次回の期末でSpeakingテストがあったら，もっともっと練習して，きんちょーしても，自然に答えられるといいです。

□いつも先生と話すときとちがってきん張しました。っでもがんばりました。。。

(2)　第5回テスト実施後（第3学年4月初旬時点）

第2学年の終了時にアンケートをとり損ねたので，3年になってすぐのときに全員を対象におこなった。記名するしないは生徒の意志にまかせた。また集計は，英語圏からの帰国生の分を除いておこなった。アンケートとその集計結果は別に載せる（資料7）。

第1回テスト実施後のように，期待と興奮に満ちた初々しさが消えて，ずいぶん自分を客観的に見て回答しており，慣れや諦めと同時に成長のあとも感じられる。

このアンケートの質問項目のうち，今回の試行の目的や仮説に対応したものだけを取り上げてみることにする。

〈2－1：スピーキングテストを受けてきて何か良い効果があったと思うか〉

とてもそう思う（19名：16%），わりとそう思う（65名：54%），あまり思わない（28名：24%），全く思わない（7名：6%），無回答（0名）の結果が得られた。「とてもそう思う」と「わりとそう思う」を合計すると70%の生徒が良い効果があったと感じていることが分かる。「なぜそう思うのか」という自由記述欄に書かれているものを以下に載せる（原文ママ）。

ある程度の強制力を持たせると効果があるのではと考えたが，生徒の自由記述にもそういう感想がけっこうあったので，テストの強制力が必ずしもマイナスに働いていないことがわかった。また，テストがあるために事前に友だちと練習をすることの効果を挙げている生徒もいて，これも予想通りだったと言える。「英検の準備ができる」など予想しなかったものもあったが，全体的に，あらかじめ予想していた効果を生徒も実感していると分かってので，評価できる点はそのままに3年次の試行につなげたい。効果を感じなかった生徒の意見も，なるほどと思えるものが多いので，それらを反省点として授業やテストの改善をしていきたい。

なお，いつも定期考査で30点前後しか取れない生徒が「とても効果がある」を選び，「スピーキングがテストの点を一番かせいでいるから」という感想を書いており，大変勇気づけられた。

■とてもそう思う■

・その時の内容の文法を一生懸命おぼえたから。　・外国で話せるようになった。

・テストだと意識することによって覚えたりできるから。　・使えるから。

・めったに教わる機会もないし，勉強する機会もない。将来役に立つから。

・テストでもやらない限り，スピーキングの練習をする機会をもたない人が沢山いるから。

・役に立つから。・NOVAなどの英会話に通っていない人は英語を話す機会がないと思うから。
・読むことがうまくなった！　・練習をたくさんするので覚えることができるから。
・アクセントなど帰国の子と練習してもらったり，文が間違ってないかきいたりする機会になったから。　・テストによって話す力が少しは絶対についたから。
・英検などもとりたいので面接の練習になった。　・他にあまり英語で会話しないから。
・やりやすい。将来役に立つ（話すことが多い）。　・話すことが心から楽しいと思った。
・スピーキングがテストの点を一番かせいでいるから。

■わりとそう思う■

・話す力が少しついた。　・英検とかで，とまどわずにすむから。　・話せれば，書けるから。
・日常会話でよく使うセリフをすぐ思い出せるようになった気がするから。
・しゃべったことによっておぼえるから。　・まあまあ話すことに慣れた。　・少し慣れた。
・少しはスラスラ読めるようになった。　・日常生活で普段あまり話さないから。
・話すことはめったにできないし，それを評価してもらうのもあまりできないから。
・「とっさの一言」のような町中でよく使う英文を覚えることが出来るから。　・なんとなく。
・話す力がつくから。　・普通はあまり英語を話さないから。・イヤでも練習するから(笑)。
・話す力が少しはついたと思うから。　・テストがあるとがんばって覚えようとするから。
・話す力がついてきたから。　・英検3級の面接の結果がヤケに良かったから。
・一番最初よりしゃべることが好きになり，しゃべるようになったから。　・自信がついた。
・聞いてパッと答えられる（頭の中で答えを考えられる）ようになったから。
・すらすら読めるようになったから。　・ゆっくり話す人の英語は聞き取れるようになったから。
・テストがあるといやでも覚えるから。　・やらないよりはマシだと思うから。　・身にはつくから。
・テストのために復習することによってうまく英語が言えるようになるので。
・自分のスピーキングが点数としてヨシアシが分かるから。　・聞いて話す力がついた。
・英語を読むことにきょうみをもってきたから。はつおんをきにするようになった。
・１度目にテストをやった時よりも今の方が話せるようになったと思うから。
・やる回を重ねるにつれてそんなに緊張しなくなりました。同じ先生だからかもしれませんが。
・日常生活には何ら影響はないが，テストがあるということで少しは多く勉強できたから。
・普段はあまり英語を話す機会がないので，練習するときだけでもしゃべれるから。練習したことによって頭に入ったこともあるから。

・本当に外国人さんとお話し出来そうだから。　・英語を話す機会が出来たから。
・少しは話しながら英文を組み立てられるようになったから。
・テストだとみんなある程度は練習をするから。　・少し話す力がついたから。
・Asking the Way など，全然知らないことを覚えられたから。　・話す力がけっこうついた。
・覚えたから！テストにでてきても大体覚えていると思う。　・単語の発音が正しくなるから。
・ちがう面「例えばきんちょうを少ししなくなった」で役にたっているから。
・テストのおかげで話ながら文法にそった文を組み立てられるようになってきたから。
・少しは話せるようになった…かな？　・話すのは，これからの将来役に立つから。
・道をたずねられた時の答え方など，実際に使える会話だったから。
・やはりテストがなきゃ勉強しません。かといってテスト大賛成なわけないですけど。
・単語の読み方を確認できる。etc。　・話せることは文にして書けるから。
・道案内などを覚えたから。　・外人としゃべる機会が少ない。
・やっぱり話す力は英語を勉強する上で（一番）必要だと思うから。

■あまり思わない■

・日常生活で話さないから。　・その１回で終わるから。　・役に立ったことがないから。
・あれだけでスピーキングができるようになるとは思わないから。　・話すだけだから。
・あまり伸びたとも思えないから。　・何も変わってないから。　・なんとなく。
・日本っぽいから。テストじゃなくコミュニケーションが必要。　・可もなく不可もないから。
・どこにも役立たないし，忘れる。　・今もリスニングが苦手だから。　・簡単だから。
・スピーキングテストといっても結局のところただ暗記した文を言えばいいだけだから。ただ話を聞く力は多少なりともついたと思う。
・実際に他に使う機会があまりないし，テストの時は覚えてるけどテストが終わるとすぐに忘れてしまうから。　・効果…といわれてもわからない。でもスピーキングテストはいいと思う。
・スピーキングテストのとき出来ても忘れちゃう（道案内のやつとか)。やるんならテストとしてじゃなくてもっと話すのを沢山した方がいーと思う。
・外国で日常的によく使わない会話が多いから。　・何回やっても緊張するから。
・先生が何を質問するのかあらかじめわかっているから。　・役に立ってないから。
・スピーキングテストをしてもあまり話せるようにならないから。

■まったく思わない■

・すぐに忘れるから　・役に立たないから　・何も効果が出ていないから
・何も変わってないから　・発音がいいという人も悪いという人も同じくらいいるから

〈2－3：スピーキングテストで良い成績がとれていると思うか〉

とてもそう思う（14名：12%），わりとそう思う（71名：60%），あまり思わない（24名：20%），全く思わない（5名：4%），無回答（5名：4%）の結果が得られた。「とてもそう思う」と「わりとそう思う」を合計すると72%の生徒が「良い成績がとれていると思う」と回答している。もともと問題を平易にしているので当然の結果だろう。これは次の難易度についての質問の回答にもつながっている。

〈2－4：難易度について〉

もっとずっと難しくてもよい（5名：4%），もう少しだけ難しくてもよい（25名：21%），これまで通りでよい（72名：60%），もう少しだけ簡単にしてほしい（5名：4%），もっとずっと簡単にしてほしい（9名：8%），無回答（3名：3%）の結果が得られた。「これまで通りでよい」という回答が60%ある一方で，4分の1の生徒が難しくすることを望んでいる。

英語の苦手な生徒に達成感を持ってもらうことは成功したと言えるが，英語の得意な生徒の達成感を満たすには，一連のテストは少々易しすぎたかも知れない。

(3) アンケート結果に表れない評価

これは教員側の評価だが，結局，定期考査などのペーパーテストでも，一連の平易なスピーキングテストでも，両方において点がとれない生徒が学年で数名いるが，彼らは「英語を全く理解できていない」ということが分かる。授業でもテストでも，一斉におこなうものでは対応できないので，個別に対応するしかない。

2. 今後の課題

3年間試行したあとで全体的なまとめをしたいと考えているが，とりあえず2年間計5回の試行を経てみてわかった課題を以下に書く。

(1) ほかの学年と比較ができない

英語科は3人の教員が学年ごとに担当しており，他の2つの学年については生徒の状況が実感できないという現状がある。つまり，スピーキングテストを実施した結果，「話す」力の全員の底上げが出来ているのかどうか，実施していない学年との比較の仕様がないため，数値など目に見える形では分からないのである。スピーキングテストをおこなった場合と，おこなわなかった場合との比較をしたいが，同一学年でテストをするクラスとしないクラスを作るとか，他学年から対照実験の被験者を募るなどしない限り無理だろう。

唯一比較できたこととしてはALTの感想がある。ALTは毎年全学年を教えているが，本校に10年近く勤務して，毎年1年生の2学期頃に簡単なQ＆Aの授業を担当してきたMr. Powerは，たまたまスピーキングテストをおこなって1週間ほどした頃の生徒を相手に授業をしたところ，みな大変よく応答ができることに驚いていた。

これは傍らで聞いていた私も驚いたほどで，前回あるいは前々回の1年生を担当したとき

の様子とは格段に違っていた。ALTの質問がどんなにスピードが速くても，テストでやった英語なら即答できていた。つまりALTの発音するWhere do you live? は，自分の知っている［ホエア ドゥ ユー リヴ？］のことなのだと頭の中で結びつけられるようで，ネイティヴの発音に立ち往生することもなかったようである。1週間ほど前にテストをしたことをMr.Powerに伝えると，深く納得しており，「それは大変良い試みだから今後も続けた方がいい」と言われた。当時できれば3年間続けたいと考えていたので，ALTに背中を押された気がして励みになった。

いきなりネイティヴスピーカーとの会話から入ると，相手が何を言っているか分からないまま時間が過ぎていく，ということがよくある。“Festival”は実は“First of all”であり，［ディッシャー］に聞こえるものが，実は“this year”であり，［シーズガット］と聞こえるけれどなぜ“She is got…”なのだろうと思っていると，［シーズ］の部分は“She has”の短縮形の“She's”であったというようなことは，知識として知っていない限り，何度聞いても分からないままなのである。これが，母語として浴びるように聞いて自然と習得する場合と，学習言語として習得する場合との大きな違いなのだろうと思う。

スピーキングテストは，ネイティヴスピーカーとの会話に臨む以前の準備としても効果があるのではないかと考える。

(2)　14年度からの絶対評価に関係して

第3回～第5回実施は14年度のことだったので，観点別の絶対評価をつけるときに大いに役だった。が，問題点もある。

それにしても「話す」力を評価するのは難しい。音声を記録しない限り，時間が経ってから見直して客観的な目で検討することができないからである。授業中に生徒にスピーチをさせてそれを採点するやり方や，今回やってみたQ＆A方式など，果たして厳密に話す力をみているのかと言えば疑問である。1人の生徒に5分くらいかければ話す力をみることは可能だろうが，5分間分の問題を何パターンも準備するのは至難の業である。パターンを少なくしようとすれば，まだテストが終わっていない生徒に情報が流れないような工夫が必要である(つまり十分な場所と時間と試験官の人数が必要になってくる)。いずれにしても考えれば考えるほど気が遠くなる。

絶対評価が導入されてから，成績をつけるのに異常に時間がかかり，担任をしていれば通知票をつけるのにさらに時間がかかり，学期末は修羅場である。そういう状況のもとでは，学期末に向けてペーパーテストの他に，準備に手間と時間のかかるスピーキングテストをおこなうことは，効果があることは分かっていながら，とても他の教員におすすめできるものではない。もっと時期を検討したり，やり方を工夫するなどして，現状に見合ったものに変えていく必要がある。

(3)　人員の確保

生徒の在籍数と授業時間を考えると，試験官と生徒との1対1のテストを教員1名でおこ

なうのはまず不可能である。2名以上の試験官が必要で，今回は第1回および第3回～第5回テストは2名体制でおこない，第3回テストは3名体制でおこなった。非常勤講師や他学年の常勤教員など，入念に打ち合わせのできる「もう1名」がいないと成り立たない。生徒1名にかける時間をもっと増やすなら，さらに人員が必要だと言える。

また，テストに公平性を求めるならば，日本人教師なら日本人教師ばかりでおこない，ALTに試験官をお願いするなら，ALTを複数用意する必要がある。後者は理想的だが予想される問題点も多い。

(4) その他

附属学校の生徒達は選抜されて優秀だから，英語が出来ないといっても程度が違うだろう，といった種類のことはよく言われる。が，それは正しくない。一方で英検1級を取ってしまうような帰国生がいながら，一方で単語の文字配列に四苦八苦していて文法どころではない生徒がいて，かつその両極を他の生徒が断続的につなぐように分布している。要するに「話す」にしろ「書く」にしろ，全員の底上げをしようとすると，大変な手間と時間がかかる。ひたすら，地道にやっていくしかない。

資料１

１年英語　　February, 2002

第2回 スピーキングテスト (2/22) のお知らせ

1．あなた自身のことをたずねる問題を全部で6問出します。(3点×8＝24点)

◆「Yes / No で答える問題」を４問出します。（３点×４）

先生の質問	答え方
Are you［名詞 あるいは 形容詞］‥‥?	Yes, I am. / No, I'm not.
Do you ［動詞］‥‥?	Yes, I do. / No, I don't.
Can you ［動詞］‥‥?	Yes, I can. / No, I can't.

以上のパターンから１つずつ出します。なお、Can you ～? は２回出します。

◆「疑問詞で始まる問題」を４問出します（３点×４）

先生の質問	答え方
***What** [名詞]* do you ［動詞］?	I ［動詞］‥‥‥.
***What kind of** [名詞]* do you ［動詞］?	I ［動詞］‥‥‥.
***How many** [名詞]s* do you ［動詞］?	I ［動詞］‥‥‥.
Where do you ［動詞］?	I ［動詞］‥‥(in, at など)～.
How do you ［動詞］‥‥?	I ［動詞］‥‥‥.
What time do you ［動詞］‥‥?	I ［動詞］‥‥ at ～.

以上のパターンから４つ選んで出します。

2．あなたの身近な人や身近な事柄についての問題を2問出します。(3点×2＝6点)

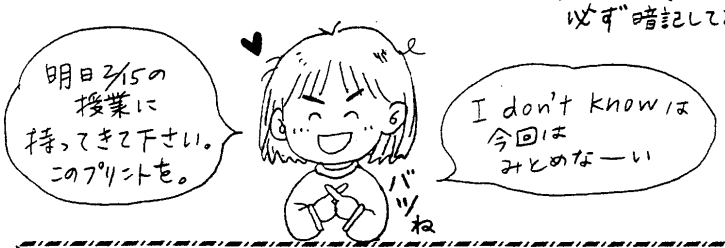
先生の質問	答え方
Is your[名詞] ‥‥‥?	Yes, he(she) is. / No, he(she) isn't.
Does your[名詞] ‥‥‥?	Yes, he(she) does. / No, he(she) doesn't
Who is ［名詞］?	［名詞］is ‥‥‥.
What is ［名詞］?	［名詞］is ‥‥‥.

以上のパターンから２つ選んで出します。

3．次のうちから1つ質問されますので、それについて「文4つ」で答えて下さい。(10点)

先生の質問	答え方
(a)Tell me about your homeroom teacher. (b)Tell me about your hobby. (c)Tell me about your best friend.	自分で自由に答える。

(a)～(c)のどれを出すかは秘密♪
まえもって答えを作って暗記しておくと安心かも。(←英語が苦手な人は必ず暗記しておくよう



◆◆◆ 採点の仕方 ◆◆◆

＊1．2．は前回と同じ採点方式です。
- 「Pardon?」は１回まで認めます。２回以上使ったらそのつど「－１」
- Yes. No. だけや単語だけで答えたら「－１」
- 先生の質問が終わって１０秒以内に答えなかったら「－１」
- 答え自体が間違っていたら「－１」
- I don't know. と答えたら「－１」

＊3．は次のように採点します。
- 語順の正しい文が１つ言えれば２点、４つ全部言えれば８点もらえます
- 何か英語で言えても、語順がめちゃくちゃだと「－１」になります。
- 黙ったままだと０点です。
- この問題は１０点満点ですが、２点分はおまけです。

＊1～3 とも、複数形や三単現の[-s]の有無、冠詞の[a / the]の有無、発音の良し悪しは採点に入れません。

それではみなさん Good Luck★

資料2

2年英語　　June, 2002

第3回スピーキングテストのお知らせ

1．実施日　7月1日(月)の英語の授業時間
2．場　所　各教室の廊下
3．形　式　1クラス34人を17人ずつに分け、2名の試験官でおこないます。
　(英語圏の取り出し授業の人たちも同じテストを受けてもらいます)
4．時　間　ひとりあたり約2分
5．配　点　期末テスト100点のうち、40点分に相当します。
　1問4点×10問＝40点
6．内　容　以下の通り

Yes, No, で答える質問を4問出します。(現在形も過去形もあります) 4点×4＝16点

<あなた自身に関する質問　と、その答え方>

[現在のこと]

Are you ～ ?	Yes, I am. / No, I'm not.
Do you ～ ?	Yes, I do. / No, I don't.

[過去のこと]

Were you ～ ?	Yes, I was. / No, I wasn't.
Did you ～ ?	Yes, I did. / No, I didn't.

[助動詞 can を使って]

Can you ～ ?	Yes, I can. / No, I can't.

<あなたの身近な人に関する質問　と、その答え方>

[現在のこと]

Is [あなたの身近な人]～ ?	Yes, he(she) is. / No, he(she) isn't.
Does [あなたの身近な人]～ ?	Yes, he(she) does. / No, he(she) doesn't.

[過去のこと]

Was [あなたの身近な人]～ ?	Yes, he(she) was. / No, he(she) wasn't.
Did [あなたの身近な人]～ ?	Yes, he(she) did. / No, he(she) didn't.

[助動詞 can を使って]

Can [あなたの身近な人]～ ?	Yes, he(she) can. / No, he(she) can't.

<一般的なことについての質問　とその答え方>

[天気や日付や曜日について]

Is it fine today? 等	Yes, it is. / No, it isn't.

疑問詞のある質問を4問だします。(現在形も過去形もあります)　4点×4＝16点

<疑問詞と質問例>→以下の例からも出ますが、もちろんこれ以外にも出ます。

What	What ***do*** you *eat* for breakfast every day?
	What ***did*** you *eat* for dinner yesterday?
	What ***is*** your phone number?
	What day of the week ***is*** it today?
	What ***is*** today's date?
What [名詞]	What color ***do*** you *like*?
	What club ***are*** you in?
What kind of [名詞]	What kind of sports ***do*** you *play*?
Who	Who ***is*** your homeroom teacher?
When	When ***is*** your birthday?
	When ***were*** you born?
What time	What time ***did*** you *get* up this morning?
Where	Where ***do*** you *live*?
How	How ***do*** you *come* to shcool?
	How ***is(was)*** the weather today(yesterday)?

※下線部が主語なので、どう答えればよいか考えましょう。

Tell me something about your elementary school days.　8点
(あなたの小学校時代のことについて何か話してください)

＊話題は何でもいいので、文はすべて、過去形の動詞を使ってください。
＊文4つ以上で答えてください。
(1文につき2点もらえて、正しい過去形の文を4つ以上言えれば8点もらえます)

採点基準は以下の通りです

1．冠詞(a, an, the)の間違いは減点しません。
2．Yes. No. だけや、単語だけで答えたら「－1点」
　10秒以内に答えが出てこなければ「－1点」
3．"Pardon(もう1回言って下さい)?" は、1問につき1回まで使用可。
　(1問につき、2度以上使ったら、そのつど「－1点」)
4．文法的な間違いは、1カ所ごとに「－1点」
　＊主語(の数や人称)と動詞が一致しないとか、時制(現在形、過去形)の間違いも減点対象になります。
5．20秒以上黙ったままとか、日本語で答えたり、"I don't know."と答えたりは「－4点」になるので、とにかく英語で何か答えて下さい。
6．最後の問題は、過去形の文が4つ言えれば、その他のことでは減点しません。
　お買い得問題なので、あらかじめ用意しておきましょう。

資料3

1

	total:	name:
1. Are you a junior high school student?		
2. Do you watch TV every day?		
3. Can you sing an English song?		
4. Can you play basketball?		
5. What color do you like?		
6. How many CDs do you have? (答え many 可)		
7. Where do you live?		
8. What time do you get up?		
9. Does your mother go shopping every day?		
10. What is your hobby?		
11. Please tell me about your homeroom teacher.		

資料4

MU1	1	Are you a junior high school student?	
	2	Do you always wash your hands before dinner?	
	3	Is it cloudy today?	
	4	Tokyo is in Japan. Where is London ?	
	5	What subject do you like best?	
	6	Did you watch World Cup soccer game yesteday?	
	7	What time did you get up this morning?	
	8	How many people are there in your family?	
	9	Will you go swimming this summer?	
	10	Please tell me something about your elementary school.	

資料５

２年英語　　2002.11.7

第4回スピーキングテストのお知らせ

日　時	１１月２６日（火）　小林先生の授業の時間を使っておこないます。
配　点	前回と同じく全部で８問です。４点×７問と、８点×１問です。

1　**Yes- No Qestion** を３問だします。以下のパターンのうちどれかになります。

■ Are / Were	you ～ ？	Yes, I am. / Yes, I was.	No, I'm not. / No, I wasn't.
Do / Did / Will	you ～ ？	Yes, I do. / Yes, I did. / Yes, I will.	No, I don't. / No, I didn't. / No, I won't.
■ Is / Was	［人名、身近な人］～ ？	Yes, he/she is. / Yes, he/she was.	No, he/she isn't. / No, he/she wasn't
Does / Did / Will	［人名、身近な人］～ ？	Yes, he/she does. / Yes, he/she did. / Yes, he/she will.	No, he/she doesn't / No, he/she didn't. / No, he/she won't.

（注）「人名、身近な人」は、たとえば Ms. Nishihira, your sister などです。

■ Are / Were	［複数名詞］～ ？	Yes, they are. / Yes, they were.	No, they aren't. / No, they weren't.
Do / Did / Will	［複数名詞］～ ？	Yes, they do. / Yes, they did. / Yes, they will.	No, they don't. / No, they didn't. / No, they won't.

（注）「複数名詞」とは、たとえば Japanese pople, people in your town, boys in your class, Ochanomizu Junior High Shool students など

2　疑問詞のある疑問文を３問出します。使われる疑問詞は以下の通りです。

What ～？（あるいは What［名詞］～）
Which ～？
Who ～？
When ～？
Where ～？
How ～？
How many［名詞］～？
How much ～？
What time ～？

※これに **1** の疑問文を応用させます。

3　**Lesson 5** で習った助動詞を使った表現を１問出します。
教科書を見て復習しておいて下さい。なお「Check It Out」に使い方がまとめられているので参考にしましょう。

4　次のテーマのうち、どれか好きなものを選んで４つの文で話して下さい。

School Uniform（制服）
School Rules（校則）
Internet（インターネット）
World Cup（ワールドカップ）
Terrorism（テロリズム），
Recycle（リサイクル）

ただし、４つの文のうち必ず１つは　**I think (that)～.** の表現を使って、自分の考えを述べて下さい。

＜その他＞
・採点基準はいつもの通りです。
・友達同士で質問しあって練習しておきましょう。

資料6

2年(　　)組(　　)番　名前(　　)

声の大きさ	声が小さすぎて聞こえない	－3	
スピーチらしさ	やる気なさそう、なげやり	－3	
抑揚(intonation)	一本調子など不自然	－3	
流暢さ(fluency)	2度以上、つっかえた	－2	
	単語をバラバラに読む	－3	
単語の発音(pronunciation & accent)	明らかな発音の間違いの個数	－	
	明らかなアクセントの間違いの個数	－	
区切れ(pause)	不自然なところで区切った箇所の個数	－	

目的地へ正しく着けそうな場合	＋5点
目的地へ正しく着けそうにない場合	＋3点
黙ってしまう、教えようとする意欲無し	＋0点

資料７

３年英語　　2003.4.15

スピーキングテストアンケート

みなさんは定期テストのたびに、１年のときからこれまで計４回のスピーキングテストを受けてきました。それを思い出して、以下のアンケートに答えてください。

1　まずはじめに、自分自身について、以下のことに答えて下さい。

1．つぎの英語の４つの力のうち、自分が得意なのはどれですか(自分の中での比較です。いくつ○をつけてもかまいません)。
（　）聞くこと　（　）話すこと　（　）読むこと　（　）書くこと

2．つぎの英語の４つの力のうち、自分が不得意なのはどれですか(自分の中での比較です。いくつ○をつけてもかまいません)。
（　）聞くこと　（　）話すこと　（　）読むこと　（　）書くこと

【その理由が分かっていれば具体的に書いて下さい】

3．伸ばしたい力はどの力ですか（いくつ○をつけてもかまいません)。
（　）聞く力　（　）話す力　（　）読む力　（　）書く力

4．[上記の３で○が１つでもある人だけ答えて下さい]
（　）その力を伸ばすために、学校での練習やテストの機会を利用したい。
（　）その力を伸ばすために、練習はしたいが、テストは受けたくない。
（　）その力を伸ばしたいとは思うが、練習もテストもやりたくない。

5．次のうち、テストのときに自分が１番緊張する順に番号を入れて下さい。
（　）リスニングテスト
（　）スピーキングテスト
（　）長文や対話分など英文を読んで、その理解力を問われるテスト
（　）単語、英作文、自由記述など、英語を書くテスト

6．なぜ１番緊張してしまうのか、その理由が分かっていれば具体的に書いて下さい。

2　これまで受けてきた４回のスピーキングテストについて答えて下さい。

1．スピーキングテストを受けてきて、何か良い効果があったと思いますか。
（　）とてもそう思う　（　）わりとそう思う　（　）あまり思わない　（　）全く思わない

2．上記の１について、なぜそう思うのですか。理由を書いて下さい。

3．スピーキングテストでは、自分は良い成績がとれていると思いますか。
（　）とてもそう思う　（　）わりとそう思う　（　）あまり思わない　（　）全く思わない

4．難易度について
（　）もっとずっと難しくてもよい
（　）もう少しだけ難しくてもよい
（　）これまで通りでよい
（　）もう少しだけ簡単にしてほしい
（　）もっとずっと簡単にしてほしい

5．スピーキングテストの中で、短いスピーチを用意しておく問題がありますが、そのための準備をしていますか。
（　）２,３日～１週間前から準備している。
（　）前日に準備する程度。
（　）ぶっつけ本番。全然準備しない。

6．スピーキングテストの中で、先生の質問に答えるタイプの問題がありますが、そのための準備をしていますか。
（　）２,３日～１週間前から、友達や家族に協力してもらってやっている。
（　）前日や当日の休み時間に準備する程度。
（　）ぶっつけ本番。全然準備しない。

3　今後のことについて

1．２年生や１年生も実施したほうがよいと思いますか。
（　）とてもそう思う　（　）わりとそう思う　（　）あまり思わない　（　）全く思わない

【それは何故ですか、理由があれば書いて下さい】

2．高校に行っても、スピーキングテストがあった方がよいと思いますか。
（　）とてもそう思う　（　）わりとそう思う　（　）あまり思わない　（　）全く思わない

【それは何故ですか、理由があれば書いて下さい】

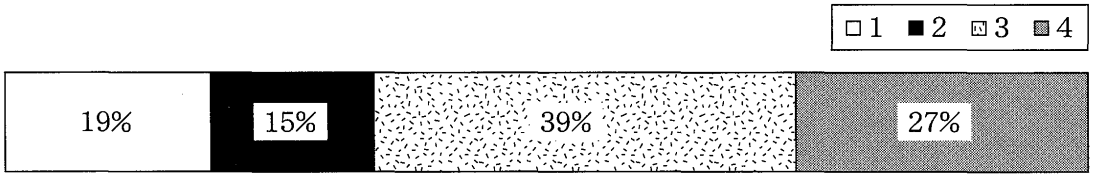
Class(　　) No.(　　) Name(　　)

スピーキングテストアンケート集計結果

1－1．得意なもの（個人内評価）（複数回答可）

（人）

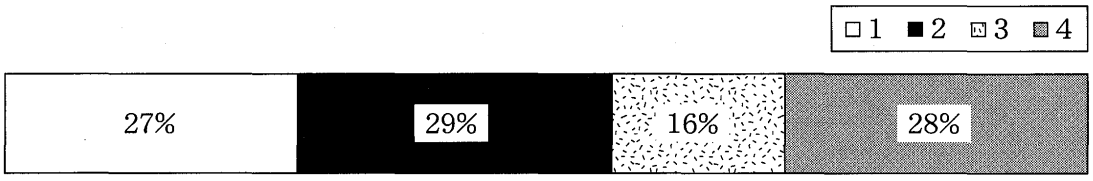
	1．聞く	2．話す	3．読む	4．書く	無回答	計
計	31	24	65	45	0	165



1－2．不得意なもの（個人内評価）（複数回答可）

（人）

	1．聞く	2．話す	3．読む	4．書く	無回答	計
計	57	63	33	59	0	212



1－3．伸ばしたい力（複数回答可）

（人）

	1．聞く	2．話す	3．読む	4．書く	無回答	計
計	79	79	66	86	0	310

1－4．力を伸ばすために（1つ選択）

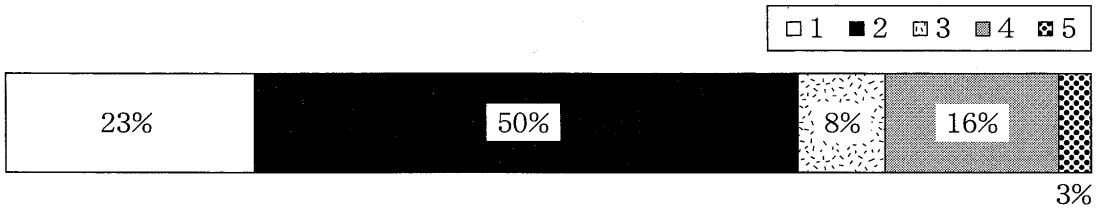
（人）

	練もテも	練○テ×	練×テ×	無回答		計
計	55	52	8	4		119

1－5．最も緊張するテスト

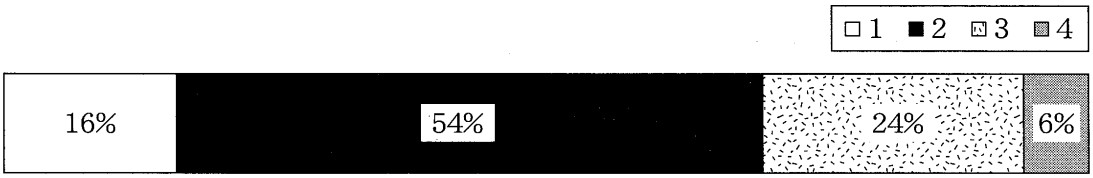
（人）

	1．Listening	2．Speaking	3．Reading	4．Writing	5．無回答	計
計	27	61	9	19	3	119



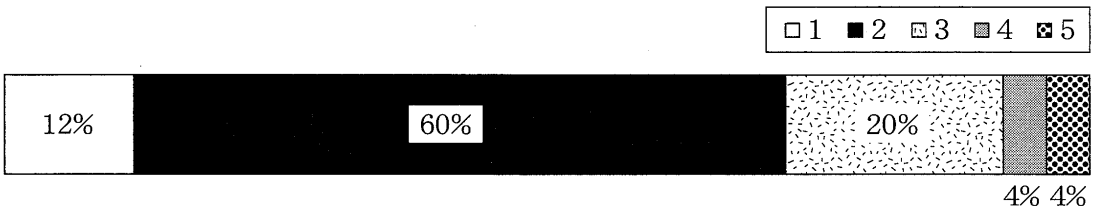
2－1．スピーキングテストを受けてきて何か良い効果があったか。　（人）

	1．とても	2．わりと	3．あまり	4．全く	無回答	計
計	19	65	28	7	0	119



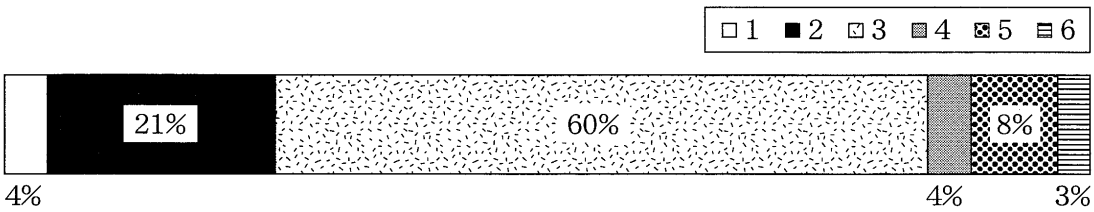
2－3．スピーキングテストで良い成績がとれていると思うか。　（人）

	1．とても	2．わりと	3．あまり	4．全く	無回答	計
計	14	71	24	5	5	119



2－4．難易度について　（人）

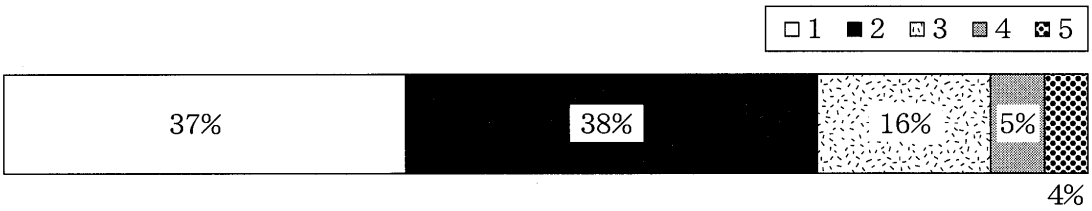
	1．もっと難	2．少し難	3．現状のまま	4．少し簡単	5．もっと簡単	6．無回答	計
計	5	25	72	5	9	3	119



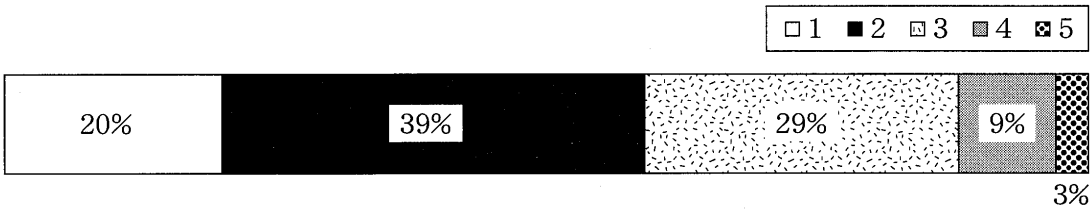
3－1．他の学年でも実施した方がよいと思うか。

（人）

	1．とても	2．わりと	3．あまり	4．全く	無回答	計
計	44	45	19	6	5	119



3－2．高校でもあった方がいいと思うか。

（人）

	1．とても	2．わりと	3．あまり	4．全く	無回答	計
計	24	45	35	11	4	119